



自分の中に知識が蓄積していく喜び

一目下、放送大学を受講中

加賀市イノベーション推進課
庄田 秀人

【しょうだ・ひでと】1978年、石川県加賀市生まれ。横浜国立大学を卒業後、加賀市役所に入庁。業務の都合上、社労士資格をはじめ多数の資格を取得。趣味は野球観戦で生粋のドラゴンズファン。公務員の仕事の楽しさを誰よりも知っている。公務員一筋18年。仕事を辞めたいと思った日数3日のみ。その経験と知識は一聞の価値あり。
e-mail : h.shouda@city.kaga.lg.jp

私の仕事

現在私は、石川県加賀市役所のイノベーション推進課という部署で、IoT・AIといった第4次産業革命スキルと言われる最先端テクノロジーを地域へ浸透させ、地域企業の活性化と地域人材の育成を図るための取組を推進する仕事をしております。

放送大学の受講動機

受講を決めた時点では市役所の福祉関係の部署に所属しており、業務内容が右も左も分らない部署で職場の同僚や関係者に様々な質問をしながら業務に当たっていました。しかし、そのとき関係者から「聞いてばかりいては知識の蓄積が遅いので、自分で大学に行くなりして学ぶべきではないか」と言われ、このことが大きな契機となりました。そこで、放送大学で福祉の分野を受講しようと思いい、心機一転・気力十分で勉強しようと思っていたところで、今年の4月より現在の部署に転属となりました。ですから、元々は最新のテクノロジーの学習ではなく福祉の勉強をするために放送大学で学ぶことを決意したということになります。しかし、幸いにも最新のテクノロジーに関する授業も少ないながらも受講を申し込んでおりました。今学んでいる学習内容はどちらも私の今後のキャリア形成において必要なものと思っており、どちらともまとめて勤務をしながら学習することができるといふ部分に大きな魅力を感じている次第です。

放送大学で学んでいる分野

現在はテクノロジーの分野より従来から受講を希望していた福祉の分野を多く学んでいます。ただし、現在の仕事や職務の領域では最新のテクノロジーの分野の詳しい知識が必須ですので、福祉分野は広く浅く、

テクノロジー分野は狭く深く学習しているイメージです。

現在の学習状況

放送大学での授業は一般的な大学の授業とは少々形態が異なります。一般的な大学の授業は通学をして学習するところが多いと思われる。しかし、放送大学では週1回行われる授業をインターネットやテレビ、ラジオなど自宅にいながら受講することが出来ます。私の学習形態としては、1週間に行われた授業を週末にまとめてインターネットで学んでいる状況です。

このように、放送大学は放送によって学習を進めるような学習形態をとっている大学ですので、時間の融通を利かせることが可能です。このあたりは、現在勤務をフルタイムで行なっている私にとっても大きなメリットと言えました。1単位は15回の授業で構成されており、私は毎週末、この単位をまとめて学んでいるような状況です。

これまでの学びの経歴

私は放送大学以外にも様々な学習を進めて参りました。人事担当部署で仕事をしていたときには、当時の上司から社会保険労務士と衛生管理者の資格を取得するように勧められたこともあり、何とか資格を取得することができました。そのため、社会保険労務士及び衛生管理者の資格に関する学習はかなりの勢いで打ち込んできた自負が

あります。

また、これも職場の人に勧められたのですが、人材マネジメントに関する研修も受講しました。その他にはプライベートで子供と一緒に地元加賀市のふるさと検定を受験したというのにも良い思い出です。

私はこのように学習を進め、様々な知識を得るということについて魅力を感じます。職務上必要な領域の学習についてはもちろん、それ以外の分野を学習する際にも、まるでボディビルダーが日々のトレーニングを通じて筋肉をつけていくかのような感覚を覚えるのです。

◆ 学びを通じた仕事やプライベートへの影響

今まで私が勉強してきた内容は業務・プライベート両方に生かされていると言えます。社会保険労務士の資格や衛生管理者の資格については福利厚生関係や労働関係に関する専門的な知識がついたことから、その周辺情報に対するアンテナが鋭くなつたと感じています。

このことから職務においても、市内企業の発展のためにそれらの知識を使うことができるのではないかと考え現在準備をしているところです。

加えて人材マネジメント研修の学習を通じて仕事に対する様々な考え方があり、ということを理解するに至り、全国の公務員とのネットワークが形成できたのも大きなポイントです。

また、ふるさと検定は子供と一緒に学ぶことができ、それを通じて一つの目標に親子一緒に取り組むことができました。これはかけがえのない時間となりました。何より、親である私自身が子供と一緒に一つの活動に打ち込むことで親としての喜びや楽しみを感じることができたのです。また、親子の絆を深めることができたとも思っております。それまでは親子一緒に一つの物事に打ち込むことはあまりありませんでしたので、ふるさと検定を通じて子供と一つの時間を共有できたことはとても大きなポイントといつて良いと思っております。

◆ モチベーション維持及び時間管理

モチベーションの維持については特異なことはしておりませんが、後押ししてくれる家族や業務でお世話になっている上司や同僚、先輩に恩返ししたいというのが原動力になっているとも言えます。

時間管理については、先述の通り、放送大学の授業や様々な学習内容は週末にまとめて時間を取って行なっております。そのため、週末は朝早く起きることで時間を作り出し、それで勉強に取り組んでいる次第です。

このように、週末の朝早い時間にまとめて勉強の時間が取れる放送大学の学習スタイルは、家族とのふれあいの時間を阻害しないという点で私としてはモチベーションの維持に役立っています。



自宅で放送大学を受講する様子

私は放送大学の学生であるとともに、現在は職を得ている社会人でもあり、家族もおります。その家族が、学ぶことを後押ししてくれたことに対しては感謝の念でいっぱいです。特に、3人の子供の世話をしながら「あなたががんばっていることにはいつも応援するよ」と言ってくれる妻や私をここまで不自由なく育ててくれた両親には、感謝してもしきれません。また職場の上司や同僚・先輩にも様々な面で迷惑をかけることが多々ありますが、これらを受け入れてくれることにも感謝しております。

周りの人達の為にも私は学習を進めることでスキルアップをはかり、将来的には様々な形で周りの人間、そしてひいては自分の職分である加賀市のためにこのスキルを余すところなく発揮したいと思えます。